

26年度 氷見市教育総合センターだより 第3報

学校経営研修会 期日：7月29日(火)

講師 弁護士 島谷 武史 先生

今年度の学校経営研修会は、昨年度に引き続いて弁護士の島谷先生から「学校における法律問題」と題して、これまでの裁判例を基に、トラブルや事故・事案に対して教員はどう配慮し、対応しなければいけないかを教えていただきました。その一部を紹介します。

<学校事故>
○スポーツ事故について
 ・安全性を第一に考えた具体的指導（段階的指導）が必要。口頭だけではダメ。
 ・何かあった時直ぐに発見できる体制。
 ・直ぐに応急措置が取れること。
 ・病院への連絡・搬送、家族への連絡。
 （マニュアルを作っておく）
○学校内の設備での事故、生徒間のトラブルについて
 ・予見の可能性の有無（小学校低学年、中学生等年齢と相関関係にある）が過失判断の可否につながる。

<いじめに関する問題>
 ・教員には学校における教育活動及びこれに密接に関連する生活関係における生徒の安全配慮義務がある。
 ・組織的にいじめに対応する法的責任がある。（いじめ防止対策推進法）。
<ネットトラブル>
 ・インターネット上で誹謗中傷すると名誉毀損罪（侮辱罪・脅迫罪）という犯罪になることを周知徹底すること。
<親からのクレーム>
 ・クレームに対して複数の教員で対応することが重要

記録が重要 **必ずメモ・記録を残す→記録を基に説明（記録が信頼性ある証拠となる）**

仲間に学ぶ研修会 期日：7月29日(火)

講師 氷見市立窪小学校 教諭 瀬戸 佳美 先生
 氷見市立西條中学校 教諭 濱下 真由美 先生

20～30代の教員が先輩教員から学ぶ研修会を行いました。
 瀬戸先生からは「ケースに学ぶ危機管理」、濱下先生からは「相談室登校生徒への支援」と題して、先生方が中央研修や内地留学等で学ばれた内容の一端を実践的な演習を交えながら話していただきました。研修参加者の感想を紹介します。

<p>「ケースに学ぶ危機管理」から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理の事例への対応をグループで話し合うことにより、日頃から危機管理への意識をもち、トラブル等への対応をきちんと行えるように準備をしておくことの大切さを改めて感じた。 ・ハインリッヒの法則について知り、ヒヤリとする事例で300分の1の確率で大きな事故につながると分かり、より一層気を引き締めて子供と接していきたいと思った。 	<p>「相談室登校生徒への支援」から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒との関わり方を実際に役割を決めて体感することにより、生徒が先生と話をすることはすごく緊張しプレッシャーを感じた。 ・演習を通して生徒目線で気持ちを考えることができた。 ・カウンセリングの5つのポイント（相づち[傾聴・共感]、繰り返し、明確化、支持、質問）を知ることができ、このポイントを意識して面接していきたい。
--	--

意欲的に、粘り強く学び続ける生徒を育てる指導の工夫

— 生徒が見通しをもち、分かる実感をもてる授業の実践を通して —
氷見市立西條中学校

1 研究内容及び成果

○視点1…関わり合いを通して基礎的な知識及び技能の確実な定着を図る学習指導の工夫

- ア 生徒同士の関わり合いを通して学び合う学習活動の充実
- イ 自分の考えをまとめ、表現する言語活動の充実
- ウ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る指導の工夫



○視点2…特別支援教育の視点に基づく授業づくり

- ア ねらいを明確にした指導とまとめの工夫
 - ・生徒が見通しをもって学習に臨むための手立てとして、黒板に「本時の学習」と「まとめ」のマグネットシートを準備し、全教科で共通して使用した。本時の課題を意識付け、1時間の授業のゴールを示すことができ、1時間で分かったこと、できるようになったこと、次時の課題を確認することができるようになった。
- イ 生徒が工夫したノートづくりができるようになるための板書の工夫
 - ・数学科では、板書の構造化に取り組んだ。1時間の授業内容が課題からまとめまで書くことができるように工夫した。また、各教科で工夫が見られるノートを廊下掲示したところ、吹き出しでコメントを入れるなど板書以外の工夫をする生徒が増えた。学校評価アンケートの結果91.1%の生徒が工夫していると答えていた。

○視点3…学習意欲を喚起するための支援

- ア 学習内容が分かる、理解できる楽しさを実感させ、興味・関心を高める授業の工夫
- イ 家庭学習習慣化のための家庭との連携
 - ・第1学年では、4月当初から生徒の基礎学力向上と家庭学習習慣の定着を目的として、自主学習ノートを活用した家庭学習を推進した。2学年では、セミナー学習、3学年では補充テキストを毎日の課題とした。予定表等を保護者にも知らせることで、家庭と連携して生徒に声をかけることができるようになった。
- ウ 生徒会活動とのタイアップ
 - ・執行部が中心となり、慣用句テスト、県庁所在地テストなど学力向上テストを実施した。また、「授業態度改善週間」を設定し、チャイム着席や積極的な発表等について生徒が昼食時に放送をしたり、廊下やホール等に手作りポスターを貼ったりして授業態度改善を全校生徒に呼びかけた。少しずつ始業時に廊下に出ている生徒が少なくなった。

2 今後の課題

- ・どの学年も成績の下位層に属する生徒の割合が高く、学習に対する意欲を失っている生徒も見られる。授業を理解させ、「分かった」という実感をもたせ、学習への意欲を喚起するための授業改善の取組が必要である。
- ・家庭学習習慣の定着には、多くの課題を残している。通信機器の所有率、使用率が高く、長時間の使用が家庭学習習慣の定着の大きな阻害要因ともなっている。講演会や各便り等を通し、保護者・生徒への通信機器やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）との関わり方に関する啓蒙が必要である。

「福井市教育委員会・福井市立成和中学校を訪問して」

6月30日（月）、当センターと北部中学校が連携し、福井市教育委員会並びに福井市立成和中学校を視察しました。参加者は北部中学校 早瀬勝教諭、田中裕子教諭、そして当センターからは光安、山崎の計4名です。早瀬・田中教諭の感想とともに成和中学校の特徴をお知らせします。



(近藤教諭の中3国語の授業)



(グループ学習で伝え合う生徒)

その1 「黙働を徹底しているんです！」

10年ほど前、成和中は荒れていたそうです。ではどうやって立ち直ったのか。竹原昭一校長が語ってくれました。校区にある三つの小学校と連携し、掃除の時間一言もしゃべらない「黙働」を実践したそうです。成和中の掃除の時間帯、校長室にいた私たちに清掃時にありがちな喧噪とした騒々しさが聞こえなかったわけがよく分かりました。

その2 生徒の主体性を大事にした授業

左の写真は中3国語「挨拶」の詩を扱った授業場面。近藤教諭（コア・ティーチャー）の笑みを浮かべた話し方やユーモアのある明るい問いかけ。ねらいを達成するために二つの詩を比較させ、「伝え合い」を重視した指導過程。加えて50分の授業時間の内、グループ学習に18分間費やし、一人一人の生徒の主体的な参画を目指す教師の強い思い。

「家庭学習の課題について評価・指導した」（学校質問紙）の質問に「その通りだと思う」の回答が全国平均を遙かに上回る福井の教育の一端を垣間見る思いでした。

視察を終えて「取り入れたいこと・伝えたいこと」

北部中学校 教諭 早瀬 勝

成和中学校を訪問し、3年国語科の研究授業を参観した。詩を題材とした授業で、作者の思いに迫ることをねらいとし、グループ活動で生徒同士の意見交流を通して考えを深めていくものであった。グループ活動は似た意見の生徒による話合いの後、異なる意見の生徒同士の話合いを行うという工夫がされており、生徒たちは自分の考えに自信をもってしっかりと話し、意見をまとめていた。また、授業者も一つ一つの意見を受容的に受け止め、生徒たちが話しやすい環境作りを心がけていたことが印象的だった。

その後、研究協議会は、当校の全教員及び中学校区内の小学校の教員も交えて行われた。上記授業について、①課題設定と話合い活動の充実、②読解力の向上を協議の柱として、6つの小グループに分かれ、意見や感想を付箋紙に書き、模造紙に貼り付けながらまとめていくワークショップ形式で進められた。国語科以外の教員からも活発に意見が出され、学校全体はもとより中学校区全体として読解力の向上を目指そうとする熱意が感じられた。

北部中学校 教諭 田中 裕子

成和中学校でコア・ティーチャーの近藤君代先生の国語科（詩「挨拶」）の授業を見学させていただいた。特に印象に残ったのは、グループ活動や話合いを取り入れた「伝え合い」を大切にされていることだった。生徒たちは前時までに考えたことをグループ内で発表し合い、それを精選したり、つなげたりしながら、根拠に基づいたよりよい「ことば」を見付けるために真剣に話し合っていた。

今回の研修を通じて、生徒が授業で伝え合うことの大切さや難しさ、そして「伝え合い」を取り入れる教師側の準備や配慮の必要性について学んだ。ただ話し合わせるのではなく目的を持った話合い活動にすること、生徒が自信をもって話すための準備や雰囲気づくりが必要であることが分かった。

今回学んだことを今後の授業に生かし、生徒の学力向上につなげていけるよう努力していきたい。

ALT アレックスさん、ジェフリーさん ありがとうございました

英語や外国語活動で指導していただいたALTのアレックスさん（4年間）とジェフリーさん（3年間）が、7月末で勤務を終え、アレックスさんは帰国、ジェフリーさんは新たな学問を修めるため千葉県へ移りました。二人からメッセージをいただきましたので紹介します。

アレックス・クラムさんからの言葉



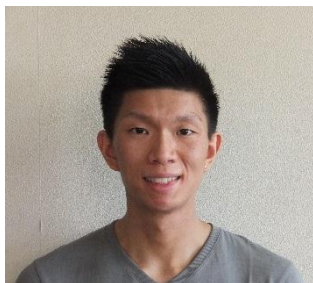
Hello, everyone! Thank you for a wonderful four years. I have thoroughly enjoyed living and working in Himi and I will never forget my experiences here. I am very thankful for the chance to live in such an amazing place and to meet so many kind and caring people.

At first, I didn't know anything about Toyama and I was nervous about living in a new place. But, thanks to all of you, I quickly became accustomed to life here and I grew to love Himi. There are so many things that I love about Himi – compassionate people, delicious food, and beautiful nature, among others. During my four years here, I visited many other places throughout Japan, but after a few days, I always found myself wanting to go back to Himi. Now, Himi has truly become my second home.

In August, I will go back to America to look for a job in sports business. I will build on my experiences in Himi and continue to try my best at whatever I do. I will miss all of you very much, but I know we will meet again someday. I am looking forward to seeing you then!

Until then, take care and good luck!

ジェフリー・カオさんからの言葉



Hello! My name is Jeffery Kao. I have been in Himi for three years and it was a wonderful time.

Right now I am preparing to move to Chiba. From September, I will be a student again. I will be studying at Hitotsubashi Graduate School. I am sad to go, but change is good! You should always challenge yourself and try new things.

I will never forget about the wonderful life that I had in Himi and I hope I will be able to visit again in the future. I won't forget the delicious food and caring people.

Thank you for the three years!